

3つの「C」

2023.1.10 校長 西谷 秀幸

新年の挨拶

令和5年、2023年が始まりました。今年は、十二支（じゅうにし）の4番目、「卯年（うとし／うさぎどし）」年です。皆さんは、十二支を全部言えますか。

子丑寅卯辰巳（ね・うし・とら・う・たつ・み）
午未申酉戌亥（うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い）



さて、板橋区の小学校は、今日から3学期が始まりました。まだまだ、新型コロナウイルスが収まらず、心配なこともたくさんありますが、きっと皆さんは、新しい年の始業式を新しい気持ちで迎えていることでしょう。

実は、人間は「よし、頑張るぞ！」と思う日が1年に5回、あるのだそうです。それはいつかというと、「お正月」、1学期・2学期・3学期の「始業式」、そして、自分の「誕生日」なのだそうです。

そこで、皆さんが成長していけるように、毎年、3学期の始業式にお話ししている3つの「C」について、今年もお話しします。

1つめの「C」は「**C**hance」（チャンス）です。今年も先生たちや家の人・地域の人たちは、皆さんのためにたくさんの「チャンス」を用意してくれます。ですから、その「チャンス」をしっかりとつかみ取りましょう。

2つめの「C」は「**C**hallenge」（チャレンジ）です。成長するためには新しいことに「チャレンジ」をすることが大切です。「失敗は成功のもと」といいます。どんなことにも積極的に「チャレンジ」をしてみましょう。

そして、3つめの「C」は「**C**hange」（チェンジ）です。**C**hance（チャンス）をつかみ、新しいことに積極的に**C**hallenge（チャレンジ）することによって、より成長した自分に**C**hange（チェンジ）しましょう。

Chance
（チャンス）
Challenge
（チャレンジ）
Change
（チェンジ）

2年前は、丑年。丑年の特徴は、「我慢」と「もうすぐ良くなる前ぶれ」でした。また、去年は寅年。寅年の特徴は「新しいことが始まり、成長する年」でした。そして、今年卯年。卯年の特徴は、「これまで努力してきたことが結果となって表れ、大きく急成長する年」なのだそうです。

3つの「C」、**C**hance」「**C**hallenge」「**C**hange」。この3つを意識し、大きく成長する3学期、そして、成長して大活躍する1年にしましょう。

これで、始業式の話が終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

令和5年、2023年が始まりました。2学期末は体調不良で休んでしまい、大変御迷惑をおかけしました。

さて、今日は、子供たちが決意を新たにする3学期始業式です。人が決意を新たに
する時期は年に5回あると言われていたのだそうで、それらは「お正月」「年に3回
ある始業式」、そして「自分の誕生日」なのだそうです。

多くの子供たちは新しい年が始まったということで、決意も新たに学校に来て
いると思います。オミクロン株の感染が再拡大していますが、子供たちの決意の気持ち
を大事にして、希望あふれる3学期のスタートを切ってください。

ところで、オンラインによる始業式ではありますが、毎回お願いしているように、
始業式が終わるまでに、必ず子供たちの前に立って様子を一人一人の様子をじっくり
見てください。話を聞く時間も、子供たちの横や斜め前から、一人一人の様子を観察
してください。これは健康管理上のことはもちろんですが、「始業式の朝の顔には、
その子の長期休業中の様子が表れる」からなのです。

担任と目線が合わない子、うつむき加減の子などは要チェックです。つまらない冬
休みを過ごした子は話に集中せず下を見ることが多いのです。冬休みに何かあった
子は、担任と視線がなかなか合いません。ですから、始業式という短い時間に、ク
ラスの子供たちの冬休みの様子を把握してください。

この表情は、始業式の後に消えて分からなくなってしまうので、ですから、始業式
の短い時間が勝負です。私たちはプロの教師ですから、教室内でどの位置にいれば
いいかを考えて行動しましょう。児童理解をする絶好のチャンスですから、みすみす
逃すことのないようにしてください。よろしく申し上げます。

また、今週は今年目標、3学期の目標などを立てるクラスが多いと思いますが、
「数字を入れて書かせる」と漠然とした目標から具体的な目標に変わります。そして
目標は立てたあとに「そのために、何をするのか」という具体的な手だてが大切です。
学級の実態に合わせて御指導ください。

3学期は、授業日数が53日（6年生は54日）しかありません。毎時間の授業を
今まで以上に意図的・計画的に進め、無駄に過ごす時間をできるだけ少なくしてい
きたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

なお、教室では、せひ「春の七草」も話題にしていただけると幸いです。「せりな
ずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草」…これくらいは
覚えさせたいですね。

今週はやる事がたくさんありますが、車と同じで急加速は厳禁です。ゆっくりと
徐々にペースをあげていただければと思います。よろしく申し上げます。

【資料】十二支の「卯」と干支「癸卯」について

- 十二支は、もともと動物とは無関係のものだった。東西南北の方角に「子（ね）
・丑（うし）・寅（とら）・卯（う）・辰（たつ）・巳（み）・午（うま）・未（ひ
つじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（い）」と漢字をあてていたが、
のちに十二支を覚えやすくするために、それら字に動物をあてはめ、4番目の
「卯」には、「うさぎ」が割り当てられた。
- この十二支が「干支」の意味で用いられることがあるが、干支とは本来「十干
十二支（じっかんじゅうにし）」を略した呼び名で、「十干（じっかん）」と十
二支を組み合わせたものである。
- 「十干」とは、甲（こう：きのえ）、乙（おつ：きのと）、丙（へい：ひのえ）、
丁（てい：ひのと）、戊（ぼ：つちのえ）、己（き：つちのと）、庚（こう：か
のえ）、辛（しん：かのと）、壬（じん：みずのえ）、癸（き：みずのと）の総
称で、もとは1から10までのものを数えるための言葉だった。
- 今年の干支は「癸卯（みずのと・う）」である。10番目の「癸」は、物事の終
わりと始まりを意味するほか、「揅（はかる）」という文字の一部であること
から「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開
く直前である」という意味だと言われている。また、「卯」はもともと「茂」
という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、さらに、「卯」と
いう字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、
飛び出る」という意味があると言われている。
- この2つの組み合わせである癸卯は、「これまでの努力が花開き、実り始める
こと」といった縁起のよさを表している。
- 過去の卯年の出来事を振り返ってみると、2011年には「東日本大震災」「なで
しこJAPANがサッカー女子W杯優勝」「地上波デジタル放送への完全移行」が
あり、1999年には「iモードサービス開始」「日本最古の金銭とされる富本銭
が発見」、1987年には「国鉄が民営化されJRグループ発足」「プロ野球で衣
笠祥雄選手が連続出場の世界記録を達成」「利根川進教授がノーベル医学・生
理学賞を受賞」など、時代の終わりや始まりを告げる出来事が多く起こって
おり、癸卯年の「物事の始まりと終わり」という傾向が反映されているといえる。